

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)	◎	衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除になり、出張でスーツを着るとか、結婚式でのニーズが明らかに増えてきている。また、65歳以上のワクチン接種が進んだことで、り患するおそれなくなり首都圏から子供が帰省するといった声も2～3聞いているので、少しずつだが経済が回りつつあるのではないかとみている。
	○	一般小売店 [酒] (経営者)	販売量の動き	・東京の飲食店がお酒を提供することができるようになったので販売量が少し増えている。
	○	百貨店 (経営者)	来客数の動き	・前月より1割ほど来客数が増加している。高齢の客の来店が午前中を中心に増加している。また、県外からの客も多少戻りつつある。
	○	コンビニ (経営者)	販売量の動き	・売上は徐々に回復傾向にあるが、夜間帯の売上がまだまだ持ち直していない状況である。飲食街に近いせいで、回復にはもう少し時間が必要とみている。
	○	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・来客数の微増に比例し売上も若干上向しているが、前年割れの状況である。
	○	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・ワクチン接種が進んでいる海外では日常を取り戻しつつあるという報道や、ワクチンの職域接種開始への期待、東京オリンピック開催など、気持ち的に前向きなマインドになるようなことが出てきたことで、消費者のマインドが回復してきている感じを受ける。
	○	家電量販店 (店長)	単価の動き	・白物家電も黒物家電も高額商品が売れている。来客数は、特別定額給付金が出てコロナバブルとなった前年よりは悪く、前々年と比べても若干落ちている。単価の伸びでカバーできている状況である。
	○	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・半導体の不足により納期は少し延びているが、個人客への販売が少し伸びてきている。
	○	住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・来客数も売上もコロナ禍前に近い状態に戻りつつある。高齢客が多い当店としては、ワクチン効果が多分にあるとみられる。
	○	その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	来客数の動き	・首都圏の感染拡大の影響で新幹線を始めた旅客数が戻っていないものの、当エリアの感染の落ち着きにより、来客数が徐々に増えてきている。
	○	観光型旅館 (スタッフ)	来客数の動き	・5月までは1割にも満たなかった関東や首都圏からの来客が増えている。また、県内客を始め、隣県や東北各地からの来客も前月よりも30%増加している。
	○	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されたことにより、7月の連休、東京オリンピック・パラリンピックの有人観客、夏休み等に対する売上及び売上見込みが、多少ではあるが3か月前よりは良くなっている。
	○	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・旅行業につき、感染者数動向、ワクチン接種状況等含め客の外出に対する心理的な不安や障壁が予約動向に直結する。その点において、東北6県は感染者数の減少が維持できていることや、高齢者を始めワクチン接種が加速してきていること、東北の一部県のまん延防止等重点措置適用が5月に解除されたこと、首都圏マーケットの緊急事態制限の緩和等により、低迷していた予約が上昇基調にある。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・暑さもほどほどであり、雨も少ない毎日であるが、1日当たりの乗車回数が微妙にアップしている。
○	観光名所 (職員)	お客様の様子	・来客数は県内外の新型コロナウイルスの感染状況に大分左右されているが、県内が落ち着いてくるとともに、県内客の来店は増えている。また、県外客の話聞いても、2回目のワクチン接種が終わったので動いているという人が徐々に増えてきている。大分明るい兆しが見えてきている。	
○	観光名所 (職員)	来客数の動き	・県内在住者への割引特典プランを販売している。	

○	遊園地（経営者）	来客数の動き	・ワクチン接種が加速し、徐々にではあるが県内外の客の動きが出てきている。
○	その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	来客数の動き	・来場者数に大きな変化はないが、9月末の注文住宅の住宅ローン控除の期限が近づいていることにより、住宅購入を直近で考える質の高い客の来場が増えている。
□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・6月の前半は時間短縮営業だったため、売上は3か月前とほとんど変わらない状況である。6月14日から時間短縮営業が解除になり、少しずつ客が戻りつつある。店を訪れた繁華街を流しているタクシーの運転手が、乗客がおらずにまたに困っているとこぼしていた。
□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年の8割である状況が続いている。
□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・依然として景気は良くなっていない。特に前半は、近隣市の飲食店でクラスターが発生したことで、飲食店の中には自主的に営業を自粛する店舗もあった。それにより販売量が著しく低下した。後半は暑さの影響もあり、ようやく少しずつ動き出している。
□	一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・相変わらず仕立ても減少しており、二次製品も動かない。
□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染が3か月前よりも落ち着いてきたにもかかわらず、来客数は3か月前と比べても回復しておらず、前年を下回っている状況である。
□	百貨店（買付担当）	お客様の様子	・月前半は購買意欲が高い傾向にあったが、徐々に落ち着いていった。それでも肌着や靴等必需品に近いものはコンスタントに稼働していたが、衣料品やバッグは外出控えが影響し低調である。クリアランスセールに入っても厳しいブランドが多くなっている。
□	スーパー（経営者）	単価の動き	・6月の平均1品単価、来客数、買上点数の前年比はいずれも下げ止まり感を見せていた前月と同様に推移している状況である。依然、消費は回復傾向に至っていない状況が続いている。
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価はほぼ前年を維持しているが、来客数の前年比が悪い。特に夜間の来客数が少なくなっている。遅くまで外出している人が少ないようである。
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で人の動きが鈍いため、来客数が増加しない。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候要因もあるが安定的な伸長がみられない。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の変化が前年と変わらない。特に夜間の客、ビジネス街の店舗が悪い状況である。売上も緊急事態宣言中だった前年並みであり、まだまだ景気は悪い状況である。
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・高校生の夏制服で何とか売上を計上しているが、一般客は依然として新型コロナウイルスの影響で客足が鈍い。
□	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・夏のクールビズアイテムのビジネスシャツ、ビジネスラックスの動きが非常に鈍く、来客数は前年の6割の状況である。
□	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言により来客数及び客単価が減少した。今後の東京オリンピック開催による人流増加で感染拡大も懸念され、来客数に影響が出ることも考えられる。
□	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・購入点数に変化がみられる。
□	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・既存客の入庫状況も、新規客の来場件数も前年と変わらず推移している。3か月前の決算期からの動向も例年どおりで特別変化はない。
□	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・来客数、受注共に増えつつあるが、いずれも横ばい状態である。

□	乗用車販売店 (店長)	販売量の動き	・新車の受注数はある程度戻ってきているが、一方で中古車の動きが悪く、前年比70%程度の進捗になっている。程度の良い中古よりも新車を選ぶ傾向が強いようである。
□	自動車備品販売店 (経営者)	お客様の様子	・物流が少なく、トラックの動きも少ない。
□	その他専門店 [食品] (経営者)	販売量の動き	・当県は新型コロナウイルス感染者数も落ち着いているが、県外から訪れる人の数が上向いていないので、厳しい状況が続いている。
□	その他専門店 [白衣・ユニフォーム] (営業担当)	来客数の動き	・夏物の動きがまだまだ良くない。追加注文数も少なく、夏服の変更なども少ない。ほんの一部で注文数が増えているところもあるが、ごく少数であり、飲食店を始め観光業はおしなべて動きがない状態が続いている。
□	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・平日及び土日のランチの来客数はコロナ禍以前の8割程度まで戻っているが、ディナーの来客数は厳しい。
□	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・7月も平日の客足は伸びない。
□	観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・今月も相変わらず動きは鈍いが、6月中旬頃より先の予約に動きが出てきている。
□	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・旅行需要における個人の新規申込みは繁忙期でもある夏休みシーズンを前にしても依然として鈍化傾向にある。また、団体旅行においては新規申込みがない状況が継続しており、3か月前と比較してもほぼ変わらない状況である。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で規制が緩和されても、客の動きが戻らない。
□	通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・ボーナス時期を迎えたが、決算状況の悪化や赤字決算のためボーナスが支給されない企業が多くみられる。よって、自然と消費動向が下降していく。
□	通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化はみられない。
□	通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が収束せず、相変わらず活動ができない。
□	テーマパーク (職員)	単価の動き	・買い控えが続いており、以前よりももっと厳しくなったような印象を受ける。客単価が以前より悪くなった。
□	遊園地 (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、前年と同程度で推移しているが、コロナ禍前と比較して学校団体が激減しており、低迷している状況に変わりない。
□	競艇場 (職員)	来客数の動き	・常連客の来場ばかりで新規客がいない。
□	その他サービス [自動車整備業] (経営者)	お客様の様子	・依然、感染のリスク回避のために人の往来が自粛されている。その結果、来客数、売上単価、売上金額のいずれも低調である。
□	設計事務所 (経営者)	来客数の動き	・新規計画の引き合いが継続的に発生し、業務へ結実している。いい意味で特に変化はない。
▲	商店街 (代表者)	来客数の動き	・6月のイベントや祭りが新型コロナウイルスの影響で中止となり、来街者が前年比1割程度減少し、景気は停滞している。
▲	一般小売店 [医薬品] (経営者)	来客数の動き	・来客数が大きく落ちてきている。
▲	スーパー (店長)	販売量の動き	・春先と比較すると、安い商品、価格優先の買物動向が強くなってきている。結果として買上点数が減少傾向にある。
▲	スーパー (店長)	来客数の動き	・4月と比べて商品の売上が前年比3%のマイナスになっている。来客数は1%のマイナスになっており、客単価が落ちている状況である。
▲	スーパー (営業担当)	来客数の動き	・来客数が伸び悩んでいる。特に日曜日が悪く、月間でも前年比98.0%の推移となっている。

▲	スーパー（営業担当）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染者数が減少傾向になり、外出、外食への需要が高まっているようで、内食に対しては必要最小限の購買にとどめる傾向がみられる。生鮮食品については相場高や県内産の不作もあり、客単価が97%と下がってきている。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響が一番大きく、1年以上続いている。さらに、今月は天候が悪かったこともあり、客の動きが大変悪く、売上が下がっている。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で前年比での売上が落ち続けている。特に今月は前年に特別定額給付金10万円の支給があったので落ち込みがひどい。やはりリモートワークが主流になっているので、朝夕の通勤時間帯の来客数が減っている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3～5月は来客数が前年を超える実績だったが、6月は前年比95%と落ち込んでいる。前年より週末の来客数低下が大きい。
▲	コンビニ（店長）	単価の動き	・コロナ禍で来客数が減った前年は、10万円の特別定額給付金があったので、単価は前年比100%だった。今年は来客数が大分戻ってきたが、明らかに単価が落ちている。コンビニでは前年比100%となるには厳しい状況である。
▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・ワクチン接種も始まり、少しずつ気持ちも前向きになるはずなのだが、この時期はセールを意識してか来客数が少ない。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍での軽衣料ニーズによって、客単価がダウンしている。
▲	家電量販店（店長）	来客数の動き	・前年は特別定額給付金が配られ多数の客が来店したが、今年は大きく減少している。
▲	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・受注生産なので、受注量が少ないことから販売量が減少している。コロナ禍における営業活動がなかなか厳しくなっている。
▲	その他専門店 [靴]（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数増加の影響が続いており、客足が戻らない。
▲	その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	販売量の動き	・販売量は大きく落ち込んだ前年と同等である。さらに、仕入価格、販売価格の急激な値上げにより、販売量の減少傾向が進んでいる。
▲	高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍で非常に厳しく、全てのものが解決しない宙ぶらりんな状態である。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・6月より時間短縮営業も完全になくなり通常営業に戻ったが、客は2～3割の状態で推移している。まだ様子見といった状態である。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・県独自の緊急事態宣言解除以降、多少は客が来るようになったが、東京などからの客や会社関係はほとんど来ることができない状況のようである。ごく僅かな客で商売をしている。
▲	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・コロナ禍により特に飲食業や宿泊業の売上がかなり厳しくなっており、廃業せざるを得ない状況となっている。
▲	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・全国の緊急事態宣言が地方都市まで影響し、人流がストップしている。巣籠り需要から一転し、経費節減のためか解約者も徐々に増えてきている。新規加入者、既存加入者の追加サービスへの加入も止まってしまった。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・前年の今頃は緊急事態宣言が解除され、一旦売上が急激に上がり、その状態が1か月半くらい続いた。しかし、今回まん延防止等重点措置が解除された後は売上の伸びが鈍化しており、来客数も前年よりはるかに少ない。リターン率もかなり悪くなっている状況である。来客数は前年の8～9割程度であり、今のところ回復の兆しが見えず厳しい状況である。
▲	住宅販売会社（経営者）	それ以外	・建築受注量は前年を上回っている。一般建築が主だが住宅は減少している。

	▲	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	販売量の動き	・住宅設備機器はエアコンが予測を下回っている。給湯器の交換も減っている。リフォームは簡易な修繕やハウスクリーニングは増えたが、高額の工事は減っている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・5月の連休明け以降も来客数が増えていない。
	×	一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・出版物の消費傾向は新型コロナウイルスの感染状況や単身生活者の状況にマッチした商品は相変わらず好調に推移している。全体的には、前年のような強烈なベストセラーがないので厳しい。
	×	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今月に入り地域内の新型コロナウイルスの感染状況が悪化している。飲食店関連だけでなく市中感染も広まるとみられることから、明らかに来客数が減少している。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・前年6月は特別定額給付金の給付があり、コロナ禍であっても多少の消費に結び付いた部分があった。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・飲食店の落ち込みを含め、全国的に良くなる要素がほぼない。飲食店は細々と可能な範囲で営業をしているが、非常に厳しい状況をしのげなくなりつつある。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月の来客もかなり厳しい状況である。平日でせいぜい2～3組程度、ディナータイムはほぼないような状況が相変わらず続いている。ワクチン接種は増えてきたが、来客にはまだ結び付いていないという状況である。
	×	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・連日、新型コロナウイルス感染者数は減少してはいるのだが、まだまだ不安感はなくならないようで、特に繁華街での会食は止まっている。客に聞いたところ、会社からストップが掛かっており出てこれないということである。この状況は新型コロナウイルスの感染が収束するまでは続く予想するので、繁華街の飲食店はますます不況になる。
	×	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・団体客が皆無のため、来客数が減少している。また、個人客もまだまだ少ない。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で状況は非常に良くなかったが、1回目のワクチン接種が終了し、2回目の高齢者も出てきて、タクシー利用の客にとってはムードが良くなってきつつある。
企業 動向 関連 (東北)	◎	—	—	—
	○	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・当園は比較的豊作となっているさくらんぼだが、県内では不作だったため、取引価格が前年よりも上昇している。
	○	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量が前年同月比105%となり、やや上向いてきた。3か月前と比べても、ギリ貧状態から脱出しつつあるようである。
	○	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・予定が後ろ倒しになりつつも、受注量は戻ってきている。
	○	建設業（企画担当）	取引先の様子	・業種によってばらつきはあるが、投資意欲は総じて減っていないようである。
	○	公認会計士	取引先の様子	・客の月次、決算状況から判断している。サービス業、小売業などは少し回復傾向にある。飲食関係は相変わらず低空飛行で、建設業は業種により業績が別れてきている。全体としてはまだ何ともいえない状況である。
	○	その他企業〔企画業〕（経営者）	それ以外	・近くの温泉街の宿泊や食事の予約が、新型コロナウイルス感染前ほどではないものの増えていると聞いている。これが続くのかまだ予断を許さないが、今は福音と考えているとのことだった。
	□	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・天候にも恵まれ果物の生育は順調だが、春の霜被害で品質は低下している。
	□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・お中元商戦がスタートしたが動きは余り良くない。前年はまずまず良かったが、1人10万円の特別定額給付金の影響があったからかもしれない。新型コロナウイルスの感染がなかなか落ち着かない影響が出ているとみている。

	□	出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・割増商品券など新型コロナウイルス対策の印刷物が受注で きたが、それがなければかなりの落ち込みであった。
	□	出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・イベントの中止、延期に加え、各種会合はオンラインや書 面開催が多く、業界として受注量の回復に結び付かない状況 に変わらない。
	□	電気機械器具製 造業（企画担 当）	受注量や販売量 の動き	・コロナ禍における半導体業界の状況は大きな変化がなく、 特に我々の景気を大きく左右する受注量・販売量も変化がな い状況が続いている。
	□	電気機械器具製 造業（営業担 当）	取引先の様子	・客と会議や会話をするなかで、以前にも増してコストをシ ビアに検討するようになっている等、目下まだまだ厳しい状 況が続いている。
	□	輸送業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・新たなマイナス要因として運賃の下落が出てきた。新型コ ロナウイルスの影響により貨物量が減ってきており、競争激 化状態になっているのが原因と思われる。6月の売上予想は 前年比で7%減、前々年比で16%減である。
	□	通信業（営業担 当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響に自社内のリモートワークもあ いまって、客との接触が厳しくなっており、営業対応に苦慮 している。
	□	金融業（営業担 当）	取引先の様子	・繁華街での新型コロナウイルス感染が続いており、飲食業 は引き続き厳しい状況が続いている。
	□	金融業（広報担 当）	取引先の様子	・宿泊、観光、飲食業の苦戦は続いており、人員リストラに 踏み切らざるを得ない企業も出てきている。一方で住宅メー カー、自動車ディーラーは需要が高まりつつある。業種によ りコロナ禍の影響には大小あるが、個人消費全体としては下 げ止まり感がある。
	□	広告業協会（役 員）	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者、病床利用率は落ち着い てきたが、依然としてイベントの中止も多く、活発な販促活 動を展開するまでには至っていない。広告売上は前年を上 回っているものの、前々年比ではまだ遠く及ばない状態であ る。
	□	広告代理店（経 営者）	受注量や販売量 の動き	・土産品の売行きが戻らない。それらの包装資材やパッケ ージ等の売上が悪い。
	□	経営コンサル タント	それ以外	・地元の飲食店はアルコール提供時短要請の影響で、経営余 力がほとんどない状況である。
	□	その他非製造業 〔飲食品卸売 業〕（経営者）	受注価格や販売 価格の動き	・新型コロナウイルスの感染状況は以前と変わらず、大変な 思いで生活や商売している人も多い。しかし、政府が進めて いるワクチン接種などの対策がかなり進んでいるので安心感 が出て、買物なども以前よりは旺盛になったという印象を受 ける。
	▲	窯業・土石製品 製造業（役員）	受注量や販売量 の動き	・公共工事、民間工事が減少しており、需要は前年比で90% と低調である。今後もしばらくはこのような状況で推移する 見込みである。
	▲	建設業（従業 員）	受注量や販売量 の動き	・一定の受注はあったものの、年度末の駆け込み契約時と比 較すると減少傾向となっている。
	▲	コピーサービ ス業（従業員）	取引先の様子	・商談が小粒になり、受注しても売上高を伸ばすまでに至っ ていない。助成金を絡めて提案をしているが、動きが鈍い。
	×	食料品製造業 （営業担当）	受注量や販売量 の動き	・緊急事態宣言が明けても人の行動制限は解けず、観光業界 はいまだに厳しい。前年はコロナ禍における自家需要やギフ ト需要による売上が急激に伸びたが、今年はそれほどの伸び はないようである。
雇用 関連 （東北）	◎	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・前月に続いて各県のワクチン接種関連の派遣オーダーが増 加している。そこに定期増員の外資系生保の事務センターか ら20名規模の受注が重なっている。
	○	人材派遣会社 （社員）	求職者数の動き	・専門商社や飲食店、建設資材の企業など、正社員を中途採 用する企業が出てきている。県全体をみても求人に入力して いる企業が増えてきている。
	○	人材派遣会社 （社員）	周辺企業の様子	・募集開始企業、採用決定企業の両方が拡大している。総じ て中途採用に前向きな企業が増えている印象を受ける。背景 には新型コロナウイルスで新卒採用を抑えた部分を中途採用 で代替するなどの動きが見えている。

○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の扱い件数が増加してきている。業種に偏りはあるが、人手不足感が出ているためとみられる。
○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・小売業、サービス業の求人数は伸び悩んでいるが、宿泊業において県民向けのキャンペーンやアフターコロナを見据えた募集も出てきている。また、製造業での求人募集も増えており、少しずつ明るい兆しが見えてきている。
□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・6月は求人の方の大きな動きがなく、求職者の動きに変化がみられなかった。
□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの影響により製造業は厳しい状況にあるが、大型の工場の進出の決定や大型商業施設の開店など、明るさを感じさせる要因もある。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が上向いていない。
▲	アウトソーシング企業（社員）	求人数の動き	・現在、新規採用の募集をしているが、かなりの人数が来ている。旅行業、飲食業を辞めた人からの応募もあり、コロナ禍の影響がうかがえる。
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・実施予定だった大型催事が相次いで中止になっている。告知広告がキャンセルになるなど影響が出ている。
▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比較して、新規求人数、有効求人数共に約300人減少している。
▲	学校〔専門学校〕	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの影響で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置への対策を講じなければならない自治体の飲食店においては、タイムリーな補助金給付もなく休店や閉店に追い込まれている状況がみられる。
×	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・飲食店を含め、給付金制度による補償がなくなった今、以前のような売上見込みが立てられず、人の採用もどうしてよいかの判断ができない。特に個人店舗は非常に苦しい状況に追い込まれている。
×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響を受けている。